

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
 (仮称)京田辺市大住池ノ端 計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				2.5	0.15			2.5
1.2 遮音				3.0	0.40			
1 開口部遮音性能				1.8	0.40			
2 界壁遮音性能				1.0	0.60			
3 界床遮音性能(経量衝撃源)				3.0	0.40			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音				3.0	0.20			
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.6	0.35			2.6
1 室温				3.0	0.50			
2 外皮性能				3.0	0.38			
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25			
2.2 湿度制御				3.0	0.38			
2.3 空調方式				1.0	0.20			
				3.0	0.30			
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				2.8	0.25			2.8
1 昼光率				3.8	0.30			
2 方位別開口				4.0	0.60			
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策				3.0	0.40			
1 昼光制御				2.0	0.30			
3.3 照度				2.0	1.00			
3.4 照明制御				3.0	0.15			
				3.0	0.25			
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.7	0.25			3.7
1 化学汚染物質				4.0	0.50			
4.2 換気				4.0	1.00			
1 換気量				3.8	0.30			
2 自然換気性能				3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				5.0	0.33			
4.3 運用管理				3.0	0.33			
1 CO ₂ の監視				3.0	0.20			
2 喫煙の制御				3.0	0.50			
				3.0	0.50			
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				2.8	0.40			2.8
1 広さ・収納性				3.0	0.40			
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				3.0	0.33			
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	0.30			
2 リフレッシュスペース				5.0	0.33			
3 内装計画				3.0	0.33			
1.3 維持管理				1.0	0.33			
1 維持管理に配慮した設計				2.5	0.30			
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.9	0.30			2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.80			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.30			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.20			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.10			
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.20			
				2.0	0.20			

2.4 信頼性				2.8	0.20			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			2.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.4	0.30			3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30			
1	階高のゆとり			5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30			
3.3 設備の更新性				3.0	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37			2.5
1	生物環境の保全と創出	●とも	A'(全国版準用)	2.0	0.30			2.0
2	まちなみ・景観への配慮	○	C(独自加算) D(独自基準)	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも, 自然	A'(全国版準用)	2.0	0.50			
3.2	敷地内温暖環境の向上	●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性								3.0
LR1 エネルギー				-	0.40			2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m :0.67	5.0	0.08		5.0
2	自然エネルギー利用	●自然	A(全国版準用)	3.0	0.12			3.0
3	設備システムの高効率化	●自然	C(独自加算)	[BEI][BEI _m] = 0.86	2.7	0.59		2.7
4 効率的運用				3.0	0.24			3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			
4.1	モニタリング			3.0	0.50			
4.2	運用管理体制			3.0	0.50			
集合住宅の評価								
4.1	モニタリング							
4.2	運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.2
1 水資源確保				3.4	0.20			3.4
1.1	節水			4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60			3.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70			
1	消火剤			-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50			
3	冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			2.9
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2 90%	3.3	0.33		3.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			2.4
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2	温暖環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1	騒音			3.0	1.00			
2	振動			-	-			
3	悪臭			-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1	風害の抑制			3.0	0.70			
2	砂塵の抑制							
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1	露外照明及び露内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)	3.0	0.30			

記号凡例 ●: 重点項目 ○: 低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」: 大切に使う 「とも」: ともに使う 「自然」: 自然からつくる